

2022年度

SB

小論文

3月12日(土)

人文社会科学部 (言語文化学科)

10:00~11:30

【後期日程】

注意事項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(2枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、2ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚(表裏))を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・書き出しは一マスあける。
- ・改行したら一マスあける。
- ・句読点はそれぞれ一マスとする。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章は、朝日新聞に掲載されたインタビュー記事である。これを読み、あとの設問に答えなさい。

市区町村のウェブページや公共施設の案内などで、平仮名ばかりの文章を見かけることがある。「やさしい日本語」というらしい。目にとると、どうも奇妙な心地がする。幼児向けの本を読んでいるような……。日本語教育を専門にしている、言語学者の庵功雄さんに聞いた。「やさしい」のは、誰のため、何のためですか。

——そもそも「やさしい日本語」とは何ですか。街などで平仮名ばかりの表記を見ることが増えましたが、定義はあるのですか。

「日本語の語彙を絞って漢字を減らし、文のパターンを30種類ほどにします。例えば、条件を示す語として『(する)と』『(す)れば』『(した)ら』『(する)なら』がありますが、『やさしい日本語』では、『たら』しか使いません。ほかにも、『と思えます』は使わず、『たぶん』だけにしますし、ほぼ同じ意味を表す文法形式が複数ある場合は、一つだけを使います。それでも、かなりの内容が伝えられるのです」

「26年前の阪神大震災では、多くの在日外国人が避難先などについての重要情報を得られず、二次被災しました。この経験を元に、災害時に大切な情報を伝えるために考案されたものです。最近では、日本人と外国人が意思疎通をするための共通言語として、平時にも使われるようになりました」

——日本語を簡単にするのではなく、英語や中国語といった多言語で表示したり、話したりするのは駄目なのでしょうか。

「国内に住む外国人を対象にした国立国語研究所の調査では、英語よりも日本語の方が『わかる』と答えた人が多いという結果が出ています。旅行者には英語が適していますが、長期定住者は日本語の方が理解しやすい。英語は日本人の側も得意とは言えません」

「それに、多言語といっても定住外国人の多くが話す主な言語だけでも20近くあり、すべてに応じるのは現実的ではありません」

——台風への警戒を呼びかけるため、「がいこくじんの みなさんへ」と平仮名だけを使ったNHKのツイートが、「ばかにしている」などと炎上したことがあります。「日本語が乱れる」と違和感を抱く人もいます。

「『やさしい日本語』は、外国人との会話のための道具です。日本人としては、場面に応じて使い分ければいいので、これだけで日本語が変わることはないでしょう。公共の場の英語表記と同じようなもので、日本語ネイティブ(母語話者)がめくじらを立てる必要はないと、私は思います」

「日本語は、構造的に難しい言語とは言えませんが、漢字を使うという問題があります。いま増えているのは非漢字圏のベトナム、インドネシアなどからの定住者です。小学校高学年で来日した子が中学入学までに千字を覚えなければならぬのは、相当に高いハードルでしょう。大人ならなおさらで、新たな数千の文字を区別し、それを使って仕事をしろと言われたら、できますか」

(中略)

——過去にも、日本語を簡単にしようとする運動がありました。うまくいきませんでした。

「ネイティブは、言葉の変化に強い抵抗感を抱くものです。1980年代に『簡約日本語』を唱えた言語学者がおり、新聞紙上でも議論が起きました。文法に制限をかけ、『旅行をします人』といった言い方をするのですが、強い反発を受けて定着しませんでした。先駆的でしたが、言語学的なつくりが稚拙でした」

「明治初期には福沢諭吉が、難しい漢字は使わない方がいいと主張していました。江戸時代には、難しい漢字を使う支配階層だけが知識を独占していたので、広く一般に知を共有するためには不必要に難解な言葉を使わない方がいい、と考えたのです。現代でも、難しい熟語や外来語を使う方が教養があるとみられがちですが、表現や論理構成の分かりやすさに価値を置く方向が望ましいと、私は思います」

——日本語を「民主化」すべきと言っているように聞こえます。

「煎じ詰めれば、そうなるかもしれませんが。誰でも伝えたいことがあれば、つたない表現でも何とかして話そうとする。それは主体的に生きようとする上で、人間の尊厳にかかわる大切なことです。そんなとき、文法におかしいと馬鹿にするのではなく、何を言おうとしているのか、その中身を受け止めるべきです」

「例えば、中国語は方言が多く、地域で言葉が違うことを前提としてるので、発音や文法の間違いに寛大です。英語にしても、ネイティブ同士のコミュニケーションは全体の4%だけで、75%はノンネイティブ同士のやりとり、つまり国際英語だと言われます。英語はすでにネイティブだけのものではありません。中国語も英語もいわば『寛容な言語』であり、そんな国際語に日本語も近づぐべきだと私は思います」

「日本語を、限られた日本人だけのものと決めつける必要はない。福沢諭吉も、そういう狭い考えを批判していたのでしよう」

——日本語を通じて、社会を寛容にするということですか。

「『やさしい』には、『易しい』と『優しい』の両方の意味が込められています。実際のコミュニケーションでは、どうしたら相手に伝わるだろう、と思う気持ち①が最初にあるはず②です。耳が遠い高齢者や語彙が少ない子どもに対して、私たちは言葉を調整して話しています。それが、まさに『やさしい日本語』です。外国人に対してだけではなく、ハンディを持った多くの日本人にとっても、やさしい言葉なのです」

〔出典〕「(インタビュー)『やさしい日本語』考 言語学者・庵功雄さん」『朝日新聞』二〇二二年六月一六日朝刊より

承諾番号 22-3407
朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

問一 傍線部①について、耳が遠い高齢者や語彙が少ない子どもに対して使う「やさしい日本語」と外国人に対して使う「やさしい日本語」は、実際には同じものにはならないと考えられる。どう違うか、考察しなさい(四〇〇字以内)。(配点 五〇%)

問二 「やさしい日本語」について、これまでのあなたの経験を踏まえて、考えを述べなさい(四〇〇字以内)。(配点 五〇%)